○議員（４番　春田　新一君）　皆さん、おはようございます。新政会所属の春田新一でございます。

まず、質問に入る前に、５月１日に副市長に就任をされました俵副市長、おめでとうございます。本市の課題解決のため、市長と歩調を合わせられ、市政運営に邁進されることを期待いたします。よろしくお願いします。

それでは、比田勝市政の２期目が始動してから３か月になろうとしております。

１期目の半ばでは、順風満帆の市政運営を進められていましたが、任期後半から韓国人観光客が日韓国家間の関係悪化により激減、その対応策を進めているさなかに、追い打ちをかけるように発生した新型コロナウイルスの感染拡大により、一部の経済活動を自粛しなければならないという状況となり、危機管理のトップとして、この島で感染者を出さないという強い気持ちのもと、今日まで危機管理に努められているというふうに思います。

今、冷え切った島の経済に活力を取り戻すためには、何か特効薬はないかと毎日毎日お考えではないでしょうか。自主財源の少ない本市においては、市民の皆さんの暮らしは決して楽とは言えません。また、これからは社会全体が生活様式も変わってくるというふうに思います。今こそ市民、行政、議会がスクラムを組み、頑張っていかなければならないというふうに思います。

それでは、通告をしていました市政一般について質問をいたします。

まず、１項目め、市営住宅改善と子育て応援策についてということで質問をいたします。

本市の市営住宅棟数と戸数を町単位で見てみますと、厳原町が２９棟の２７０戸、美津島町で２５棟の１３７戸、豊玉町では１０棟の６５戸、峰町では２０棟の７８戸、上県町では２０棟の１０８戸、上対馬町では１８棟の８８戸、市全体の住宅の合計は１２２棟の７４６戸となっております。

建設年度で見てみますと、昭和３０年度代から、現在平成１８年度までが建設となっております。住宅の多くは、昭和５０年から昭和６０年代が建設のピークだったというふうに考えられます。

次に、最低家賃と最高家賃の設定を町単位で見てみますと、厳原町は昭和３０年代に建設された木造住宅で、最低家賃は１，４００円、最高家賃、マックスが８万２，４００円、美津島町では、最低家賃が９，５００円、最高家賃、マックスは６万４，９００円、豊玉町では、最低家賃が１万４，１００円、最高家賃、マックスは８万７，３００円、峰町では、最低家賃が１万１，６００円、最高家賃、マックスは９万１００円、上県町では、最低家賃１万２，８００円、最高家賃、マックスは９万５，３００円、上対馬町では、最低家賃が１，１００円から、最高家賃、マックスは１０万４，５００円というふうに現在設定をされているというふうに思います。

特に今回質問に取り上げたいのが、上県町の日吉団地Ａ棟、Ｂ棟、上対馬町の新古里団地につ

いて最高家賃の見直しはできないか。両棟ともコンクリート四階建てでエレベーターも完備されています。間取りは２ＬＤＫと３ＬＤＫとなっております。

建設年度で見てみますと、日吉団地A棟が平成１６年度、B棟が平成１７年度、新古里団地が平成１５年度となっております。広くて生活環境もよく、子育てにも適した住宅だというふうに思います。しかし、所得が増えれば、最高家賃、マックスは日吉団地で９万５，３００円、新古里団地で１０万４，５００円ともなり、都市部の家賃と同様になるのではないかというふうに考えられます。そこで最高家賃の見直しはできないか、今回お伺いをいたします。

次に、２点目、移住・定住促進と持続可能な地域づくりについてということで質問をいたします。

このことにつきましては、昨日の伊原議員の人口減少対策の中で出ましたので、答弁は割愛されても結構でございます。

移住・定住交流促進については、本市の現状は、少子高齢化は極度に進行し、若者の島外流出による働き手不足が深刻化しております。ＵＩターンの促進と若者の定着を図り、若者の流出の抑制と担い手を確保することが本市では求められるというふうに思います。

また、本市では人口減少対策として、平成２９年度から、しまぐらし応援室が設置され、移住・定住を促進するための補助制度が設けられ、その取組の効果は実績につながっているというふうに思います。特に今後においては、島独自の文化や自然、生業、風習、地産地消など、島の魅力を発信し、女性や若者を中心とした地域の人材となる移住者を増加させることが大事だというふうに思います。

平成３０年度のＵＩターンの実績の内訳では、居住地別で見てみますと、厳原が４７名、美津島町３６名、豊玉町１０名、峰町１名、上県町９名、上対馬町１２名で、産業別で見てみますと、農業１名、林業１名、水産業が９名、建設業が２名、商工業が１３名、その他８９名で、移住者合計は、３０年度は１１５名となっております。

また、移住から定住まで手厚い支援で、住んでよかったと思える地域づくりに、さらなる行政の手腕が試されると考えます。今後、どのような支援で拡大を図っていかれるのか、お伺いをいたします。

次に、３点目です。このことにつきましても、昨日の坂本議員のほうの質問と同じになるところがあろうかと思いますので、答弁は割愛されても結構です。

地方港湾比田勝港の整備促進について。

上対馬町比田勝港は、対馬北部の玄関口であり漁業基地でもあります。港内には、西泊、古里、比田勝、網代の４地区の漁業集落があり、一本釣り漁、巻き網漁、延縄漁、定置網漁、その他の漁業を営んでおられます。漁船は、０．５トンから１９トンで１０５隻以内で、中でも５トンク

ラスの小型船が、主に周年操業を行っているという状況であります。

また、ちょうど今頃、６月から９月頃には、島内外から多くのイカ釣り漁船１９トンクラスが入港し、にぎわいを見せているところであります。多いときには、６０隻から７０隻の外来船が、漁協前の荷揚げ場用岸壁で陸揚げをし、大型保冷車で各方面に出荷されている状況でございます。

本港は干満の差があり、特に干潮時の陸揚げ作業は多くの人手と労力を要し、非効率的な作業が行われています。背後の荷揚げ場の幅も狭く転落の危険性があり、漁業者の負担軽減と安全な就漁環境を保つためにも浮き桟橋の設置が有効なことから、浮き桟橋の設置ができないか、お伺いします。

また、市内１１漁協管内において、荷揚げ場岸壁に応じた浮き桟橋、あるいは簡易浮体式等が、市管理箇所数２４か所、県管理箇所数２３か所、合計４７か所設置をされ、整備はまあまあ進んでいるというふうに考えます。しかしながら、比田勝港の上対馬町漁協本所においては、いまだに設置がされていないのが現状であります。対馬振興局には要望済みと聞き及んでおります。市長の見解と今後の方向性をお伺いいたします。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　おはようございます。春田議員の御質問にお答えいたします。

初めに、市営住宅の家賃の設定はどのような基準で定めているのか。また、最高家賃を見直す考えはないのかという御質問でございますが、公営住宅家賃の算定方法は、公営住宅法第１６条第１項に基づき、入居者の収入状況や住宅の立地条件、規模、建設時からの経過年数等に応じ、算定しているところでございます。

また、家賃の最高額の見直しができないかとのことでございますが、公営住宅法で規定されているため、市独自での見直しはできないことになっております。

最高家賃となりますと、先ほどの春田議員からの報告にもございましたように、入居者は、収入超過者もしくは高額所得者となり、明渡し努力義務が課せられます。市といたしましては、市営住宅への入居を希望していながら空きがないため、入居ができず、やむを得ず民間の高家賃での生活を余儀なくされておられる低所得者の方に、一人でも多く入居できる機会を与えるため、収入超過者または高額所得者へは、住宅の明渡し努力を喚起しているところでございます。

次に、２点目の移住・定住促進対策についてでございますが、平成２９年６月に、しまぐらし応援室を設け、移住相談窓口の一元化や移住ポータルサイトの開設、お試し住宅や定住支援住宅の整備、移住・定住支援補助金の創設など、積極的に移住支援施策に取り組んできたところであります。

移住者の状況は、平成２９年が５６人、平成３０年が１１５人、令和元年度は１３４人と年々

増加している状況であり、人口減少対策として、さらなる取組が必要であると考えております。移住・定住促進対策の中でも、生活の根幹となる住居対策が非常に重要であると考えており、定住支援住宅の整備や空き家バンクの登録拡充などに取り組んでいるところであります。

定住支援住宅は、現在市内８世帯分を確保しておりますが、移住初期期間の対応として原則２年間の貸与期間としており、その後の住居確保など地域によっては確保しづらい等の問題もあるようであります。その対策としては、空き家バンク登録制度の充実、活用に向けて取り組んでいく必要があり、令和元年度から市民向けのチラシ配布などの取組、令和元年度は、新たに１６件の登録、９件の成約の実績となっております。徐々にではありますが登録件数も伸びてきております。

しかしながら、さらなる空き家バンク制度の充実を図っていくには、地域に入り、空き家物件の掘り起こしと活用に向けた投げかけを市民に行っていく必要があると考えており、その対応といたしまして、今年度新たに地域コミュニティ支援を目的として、島おこし協働隊３名を雇用し、その業務に空き家バンクの掘り起こし業務も従事させることとしております。

今後は、地域に入りながら、空き家バンクの掘り起こし、登録物件の拡充に取り組んでまいり、定住支援住宅利用から空き家バンク制度利用への切替えがスムーズに対応できるような仕組みづくりを行いながら、移住者目線に立って住居対策に取り組んでまいります。

その他の移住促進対策としては、雇用の場の確保も重要であり、市内事業所と連携、情報を共有しながら、移住者等に対する雇用情報の提供に向けて取り組んでまいります。また、コロナの影響により各企業においてリモートワークなどが取り組まれ、今後制度化されていく企業も出てくるのではないかと考えており、そういった方々を移住対象者として捉えながら、リモートワークに特化した支援策の検討、インターネット環境の整備に取り組んでまいります。

最後に、今後は、都市部からの移住者が増えていくのではないかとの情報も流れており、移住者等のニーズを的確に把握しながら、移住・定住促進対策に向けて幅広い取組を実行してまいります。

次に、３点目でありますが、比田勝港の整備促進についてでございます。

比田勝港は、上対馬北部地域の漁業、物流の拠点港として重要な役割を担っており、現在、国際旅客航路に関連した施設整備や古里地区物揚げ場の新設を進めているところでございます。詳細については、昨日、坂本議員のほうにも報告いたしましたので割愛をさせていただきます。

また、近年、水産業においては、漁場環境の変化に伴う水揚げの減少、漁価の低迷等のほか、担い手不足や高齢化が進行し、漁村の活力低下が懸念されているため、水産業の改革に向けた就労環境の改善や施設機能の増進に取り組み、漁村の活力を高めていくことが求められているところであります。

議員御指摘のとおり、比田勝港は、地元漁船はもとより多くの外来漁船が入港し、水産物を陸揚げしておりますが、港内には漁獲物、陸揚げ用の浮き桟橋が整備されていないため、干潮時の陸揚げ作業に多大な労力と時間を要している現状でございます。このような非効率な陸揚げ作業を解消し、比田勝港を利用される漁業者の作業の効率化と安全性の向上、また高齢化する漁業者の負担軽減を図るため、昨年１０月に市と上対馬町漁協の連名で県へ浮き桟橋の設置を要望したところでございます。

県では、こうした状況を踏まえ、浮き桟橋の設置を検討していただいているところでありますが、今後は、水産物の陸揚げや荷さばき、出荷などの流通体制の効率化によるコスト縮減や、衛生管理体制の高度化による付加価値向上などの機能集約を図ることが求められており、現在、上対馬町漁協管内の港湾及び漁港を含めた陸揚げ、荷さばき機能の集約化計画の作成を漁協にお願いしているところでございます。

その方向性が決まり次第、新規事業化に向けた手続を行っていくことを県より伺っているところでございます。今後も県と連携し、比田勝港の整備促進に取り組んでまいりますので、御理解お願いいたします。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　それでは、答弁が終わりましたので、順を追って整理をしていきたいと思います。

まず１点目、先ほど、市長のほうから答弁がございました。公営住宅法でどうしてもその家賃の設定は定められておるということが、今の答弁でした。ほかの他町にとっては、私もよく分かりませんが、上県町と上対馬町の日吉団地と新江尻団地、非常に、先ほども申しましたように広くて、子育ても５人家族はゆっくり生活ができるようなつくりでございます。

今、市長のほうからありました住宅に困っている方を入れるようにということで、所得が増えれば、随時、どこにか移動しなければいけないという状況の中であります。また後ほど質問はいたしますが、移住・定住のほうでも、今は非常に対馬市では取組を強化して実績が上がっております。そういうことから考えれば、その住宅に子供を大学まで育て上げるというようなところまで住んでいただいて、それから後に余裕が出て移り住むというような考え方を市のほうでは持っていないのか。そういうことを一緒にこう含めていけば、まだまだ対馬市も人口は減少を食い止めて、増えるんじゃないかなというふうに思うわけであります。

そういうようなことも、市長、考えていかなければ、公営ではやっぱり国・県補助金が入って建てある住宅だろうというふうに思います。それで公営法で今の家賃を設定しているということでございます。それはよく分かります。しかし、私が質問をしたのは市営住宅でございますか

ら、新古里団地は、新古里団地公営住宅というふうになっております。ほかのところは、公営とかは入っていないようなところだというふうに思います。そこら辺が私はちょっと違うのかなというふうに考えて質問を取り上げているんですが、そこはそことして、今のその住宅法で設定は私たちには難しいということが結論で、答弁であろうというふうに思います。

そこを何とか、この東京の都市部と同じ１０万も家賃がなるということは、私は少しこの離島で生活をする中で非常に厳しいんじゃないかなというふうに思っているわけであります。これは私は行政の仕事だろうというふうに思います。そこら辺も今後検討をしながら、何とか住宅に困った人、また子供を育てる人のためになる施策を打ち出していってもらいたい。そこをよろしくお願いをしておきます。

住宅に困った人を優先的に入れるというのも行政の仕事だろうというふうに思います。聞いてみますと、いろいろ話が飛び混じるわけですが、やはり抽せんですから、子供が２人おって子育て真っ最中のときに、この住宅に住みたいということで申込み、しかし、そこには何名の方も応募をされておって、どうしてもくじ引でいきますので、なかなか当たらない、思うようにならないというのが今の状況であります。

住宅に困ったという人が、一人で、例えば一人の人が３ＬＤＫに入って生活をします。非常に、私も見に行きましたけど、３部屋あるわけですから、それに台所キッチンがついているわけですから、まあ１部屋でいいのに、なぜ３部屋も４部屋もあって掃除もしきらん、どうしようかというような考えを持ってある方もいらっしゃるんじゃないかなというふうに思うんですよね。そこら辺も少し精査をされながら方法を取っていくというふうなところも、私は今後視野に入れていかなければいけないのじゃないかなというふうに思いますが、市長、そこはどうでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　まず１点目の市営住宅と公営住宅ということでございましたけれども、私も、以前の関係は、旧町時代、どのようなことでされてあるのか、私のところでまだ分かりませんけれども、恐らくこれまでに建てられた住宅については、もう全て公営住宅ですから補助金が全て入っているものというふうに思います。

こういった公営住宅につきましては、今現在、所得において６段階に分けられております。収入の分位によりまして、１段階から４段階までが一般の一般階層としての入居基準ということで、１５万８，０００円以下になっております。

それから、裁量階層ということで２段階ございますが、ここが２１万４，０００円以下というようなことで公営住宅法の中で定められているということで、議員のおっしゃることは私もよく理解はできますけれども、度々会計検査等も入ってまいります。そういったときに引っかかってどうするのかというようなこともございますので、市といたしましては、できる限りこの本当に

住宅に困られた方たちに利用をしていただくよう、また空き家バンク等を今後掘り起こしながら、できる限りそういったところを紹介していきたいという考えであります。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　分かりましたが、非常に今の市長の答弁でよく分かりましたし、私も少しこの質問に入る前に話はしておりましたので、大体そういうような話になるんじゃないかなというふうに思っておりますが、やはりこの移住・定住をつなげていくためには、住宅が必要であります。

その中で、私が調べた範囲では、政策空家というのが各町に点在をしてきております。増えているような状況のところもありますので、そこら辺が、その政策空家――形が古くなったり住みにくい住宅ということになって政策空家ということで、今、次に何かしますよということで空けてあるというふうには思いますが、担当部長でもいいですので、そこのところをちょっと説明をお願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　政策空家のほうについては、担当の部長のほうから答えていただきます。

○議長（小川　廣康君）　建設部長、伊賀敏治君。

○建設部長（伊賀　敏治君）　お答えいたします。

政策空家というのは、議員おっしゃるように、各町、何戸かずつ点在しております。これは、老朽化が著しくて住むことがかなり厳しいような状況。改修をするにも、かなりお金がかかるというような住宅については解体していこうというふうな考えでございます。

入居者がおるうちは、今住んでおられるうちは解体も、出て行ってくださいと言うこともできませんので、皆さんが出て行かれた後に解体というふうな形で、政策空家という形で残しております。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　よく分かりました。そういうことで住宅に困った人が多いということであれば、まだまだ住宅も必要ではないかなというふうに思いますが、この住宅、今先ほど市長も答弁されましたが、住宅でも、環境とか、場所とか、そういうところは不便なところにはあまり申込みがない、空き家になっているというふうな状況で今あろうというふうに思います。そこら辺も今後建設をされるなら、やはりその住宅に困った人の足になるためには、どこにどういうふうにつくったらいいのかということも精査しながら、きちんとしたものを組み立てていただきたいなというふうに思います。

やはり病院、買物、学校、そういうところに近いところ、近場、それとまたこの治安のいいところを皆さんは選んでお住まいをされるわけですから、私が先ほど言いましたその広いので一人で困るよというようなところもありますが、やはりそうなれば、例えば古里の新古里団地につきましては、四階建てでエレベーターも完備されてすばらしい住宅でございます。日当たりもよくて、それで周りにも教員住宅もございますし、その中の地域の形成がきれいにできているところであります。

しかしながら、今の困った人を入れるんだ、収入が上がれば、所得が上がれば、どうしても出ていかなければいけないという状況に追い込まれるわけですが、そうすると、これは失礼な話ですが、高齢者の方が入れば、その住宅自体も管理もできない、掃除もできない、そういう状況になっていろいろな方面で不利な場面が出てくると思うんですよね。そこを何とか変えてもらえないかということですから、そこら辺も頭に置かれてしてもらえないと、これは私、個人を差別するような話を今しましたけど、そうじゃなくて、やはり適したようなところに入ってもらって、適した人の子供を育てる。このことにやっぱり適してもらわんと、増えませんよ、人口は。減少あるのみですよ、もう。本当そこら辺をもう少し、副市長も新しい副市長が誕生されましたので、歩調を合わせてじっくり精査していただきたいというふうに思います。

それでは、１項目めは、これで終わりまして、２項目めに入ります。

先ほど、私も褒めましたが、やはりこの移住・定住を、しまぐらし応援室ができてから少しは増えてきたのかなというふうに思いますし、また、そこの担当部の皆さんの御努力だろうというふうに思います。夜も昼もなく頑張っておられる姿もよく見受けます。そのようにして対馬のために一生懸命汗を流している姿が本当に敬意を表するところでございます。

さらに、ＩＵターン、あるいは移住・定住を増やすためには、やはり島の魅力が一番だというふうに思いますので、そこら辺も今後取り組んでいかなければいけないのかなというふうにも思います。

それと、一番大事なことは、基幹産業である農業、それから漁業、こういうところに少し入っていただくＩターン者、Ｕターン者を増やしていけば、おのずと人口は減少に歯止めがかかるんじゃないかなというふうに私は思うわけであります。

今、対馬では、この韓国人観光客が激減する前は、非常に観光シーズンであり、また観光事業者が多く増えました。非常にいいことでもあります。しかしながら、その足元をきちんと整備をしながら足元を見て、農業・水産業を一生懸命やっていくことに徹しないと、私はやっぱりだめだろうというふうに思います。

この島も農業・水産業が枯れれば軽くなって浮いてしまいますよ。そこら辺をじっくりこの移住・定住でも促進するためには、きちんとしたものをつくってやっていかなければいけない。そ

の他８９名ということですから、その他ですから、どこにどういうふうにおられるのか、どこでどういうふうに働いておられるのかというのも私には分かりませんが、そこら辺もやはりきちんとした就職先を求めて移住をしてくるんだというようなところまで把握をしていただいて、手厚い支援をして、対馬市に来てよかったと思える移住・定住促進にもう少し力を入れていただきたいというふうに思いますが、市長、どうでしょうか。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　議員おっしゃられることを、このことについてもよく私のほうも理解しております。

そこで、今この移住のほうも年を重ねるたびに伸びてきているところであります。そういう中で、私も、せっかく対馬においでになったこの方たちが、いや、ここに来てもちょっとあまり面白くない、楽しくないと思われたくないというようなことで、やはり対馬に来てよかった、住んでよかったと思われるような施策を、今後組み立ててまいりたいという思いを持っておりますので、今後またいろいろな面で研究もさせてほしいというふうに思っておりますし、この対馬に移住されてきた方々が、今後はこのリモートワークやら、そういった新しい面で、さらに増えてくることも予測をされるところであります。こういうことで、今後いろいろなことに対しても研究を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　本市では、人口減少に少しずつではありますが、歯止めがかかっております。非常にいいことだというふうに思っております。

平成２８年度までは約４００人程度が転出をしていたが、近年は行政の対応により、平成３０年度では約１８５人、半減をしたということで、本当にそのような実績も上がってきているわけですから、これはどのようにして、今先ほど市長が言われましたように対馬の魅力を満足させるようにできるか。これが行政の手腕にかかっているというふうに思いますし、また我々も一緒になって力を合わせてやっていかなければいけないというふうに思っております。よろしくお願いをしておきます。

それでは、３項目めの地方港湾比田勝港の整備促進についてということで、先ほど答弁もございました。非常に比田勝港は遅れているわけでございますが、いろいろな事情、諸事情があったんじゃないかなというふうにも思っております。本所だけじゃなくて支所がありまして、支所は完備をされておりますので、本所がどうしても遅れたのかなというふうにも思っております。

そこら辺を強く要望されて、一日も早い設置ができるように努力をしていただきたいなというふうに思いますが、県の方針では、令和６年度が事業の計画だというような話を私はちょっと少

し聞いておりますが、先ほども市長が述べられました。昨日、坂本議員の質問にもありましたように、古里の外来船、あるいは荷揚げ場の整備ということで多額の予算がかかるわけですが、そこら辺を整備しながら見ていきながら、この浮き桟橋の設置をしていくんだという県の方針だろうというふうに思います。しかし、そこはそこで一生懸命努力をしていただいて、令和６年を令和５年度に完成をするような話ができればいいなというふうにも思っております。

それと、今、国・県のほうでは、国土強靭化で計画が各市町村から策定をされて、事業に取りかかる方向ではあろうというふうに思います。それの中で、比田勝港の中も非常に岸壁が老朽化している、耐震化岸壁の整備をしなければいけないというふうな県の話でございます。そういうような事業に取り組んでいかなければいけないというような話でございます。

しかしながら、やはりその港湾ですから、そういうようなところも事業には取り組まなければいけないのかなというふうに思いますが、この比田勝港には４地区の集落を漁業者で賄っておるところであります。非常に港湾と漁業者との行き違いがあるようなところもいっぱいございますので、そこら辺ももう少しこう耐震岸壁を本当にすぐに予算化してやらなければいけないのか、それとも浮き桟橋、皆さんが困っていることを先にするのか、そこら辺だろうというふうに私は結論的には思います。私も県とのそういう協議ができる場があれば、そこはきちんと説明をし、話していきたいというふうに思っております。

そこで、比田勝市長の考え方、そしてまた比田勝港としてのこの西泊、上対馬町漁協のこの役割といいますか、重要港湾に今度格上げをするんだというような話もなっておりました。厳原港の第二港湾ということでやるということでありましたが、やはり私は、今こうして見てみると、市長もそのときの答弁は、観光客船を入れたり、また対馬からの木材を輸出するためのその機能を発揮させるんだというような答弁だったろうというふうに思っております。

しかし、今は、国際ターミナル、国内ターミナルと別々にきちんと整いました。しかし、これを重要港湾にして、そのような観光客船、あるいは木材を輸出する場所をそれをどこにするのか、どういうふうにしていくのか、そうすることによって漁業者が困るんじゃないか、そこら辺も今後十分に考えられるところだろうというふうに思います。

そこも含めて、今後どのようにこの比田勝港を全体を見ていくのか、市長の、先ほど私も言いましたように、耐震岸壁も含めたそういうようなところも何かコメントがあれば、コメントをお願いします。

○議長（小川　廣康君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　今、御質問のありました漁獲物陸揚げ用のこの浮き桟橋につきましては、私も以前、合併前に担当をしておりまして、その時代からずっと計画をしていたというようなことでありましたけれども、ただ、どうしても西泊の本所の漁協前の岸壁におきましては、その前

に波除堤があるということで、ちょっと漁船が、港域が狭くなって漁船の操船が難しいのではないかというような話が度々出てきておりました。

そういう関係でこれまでなかなか計画はあったものの実現しなかったのかなというふうに私自身も思っておりますが、今後、冒頭答弁させていただきましたように、これからのやっぱり漁業は高齢化が進んでおりますので、機能を向上させるためには、どうしても浮き桟橋が必要だというようなことで、今後強く県のほうにも訴えてまいりたいというふうに思っておりますし、先ほど話がありました耐震化岸壁につきましても、これは大規模災害等が想定されることから、どうしても必要な施設であろうというふうにも思っております。

そういうことで、比田勝港の今後の整備計画につきましては、比田勝港の整備計画の促進委員会がございますので、ここを中心にして、どのような施設、そしてまた順番としては、どのようなことから着工していくのがベターなのか、皆さんと協議を進めながら県のほうにも要望を重ねていくということにしたいと思っております。

以上です。

○議長（小川　廣康君）　４番、春田新一君。

○議員（４番　春田　新一君）　よく分かりました。先ほど市長が、前に大きな波除堤があるんだということでありましたが、規格については、その中で漁協やら漁組の方々と話をされていろいろな規格がありますので、それに対応できる規格で承知をしてもらって、それを取り付けるという方法で私はいいんじゃないかなというふうに思います。

また、それから高齢者の話が出ましたが、非常にこの上対馬町漁協も本当に高齢化が進んでおります。４７４人おられますが、非常に６８歳というような高齢化が進んでおります。

先ほど、移住・定住でも話しましたように、そういうようなことがあるから、やはり農業・水産業に若い後継者が育たるような取組をもっともっと縦横をつないで、うまくこうやっていかなければできないんじゃないかなというふうに思います。そこら辺をもう少しこう庁内で、庁舎内で協議をされて、いい方向に持っていかれるように、今後新しい副市長も誕生されていますので、一緒になってやっていかれるように望みまして私の質問を終わります。

○議長（小川　廣康君）　これで春田新一君の質問は終わりました。

○議長（小川　廣康君）　暫時休憩をいたします。再開を１１時５分からといたします。

午前10時46分休憩

午前11時04分再開

○議長（小川　廣康君）　再開します。